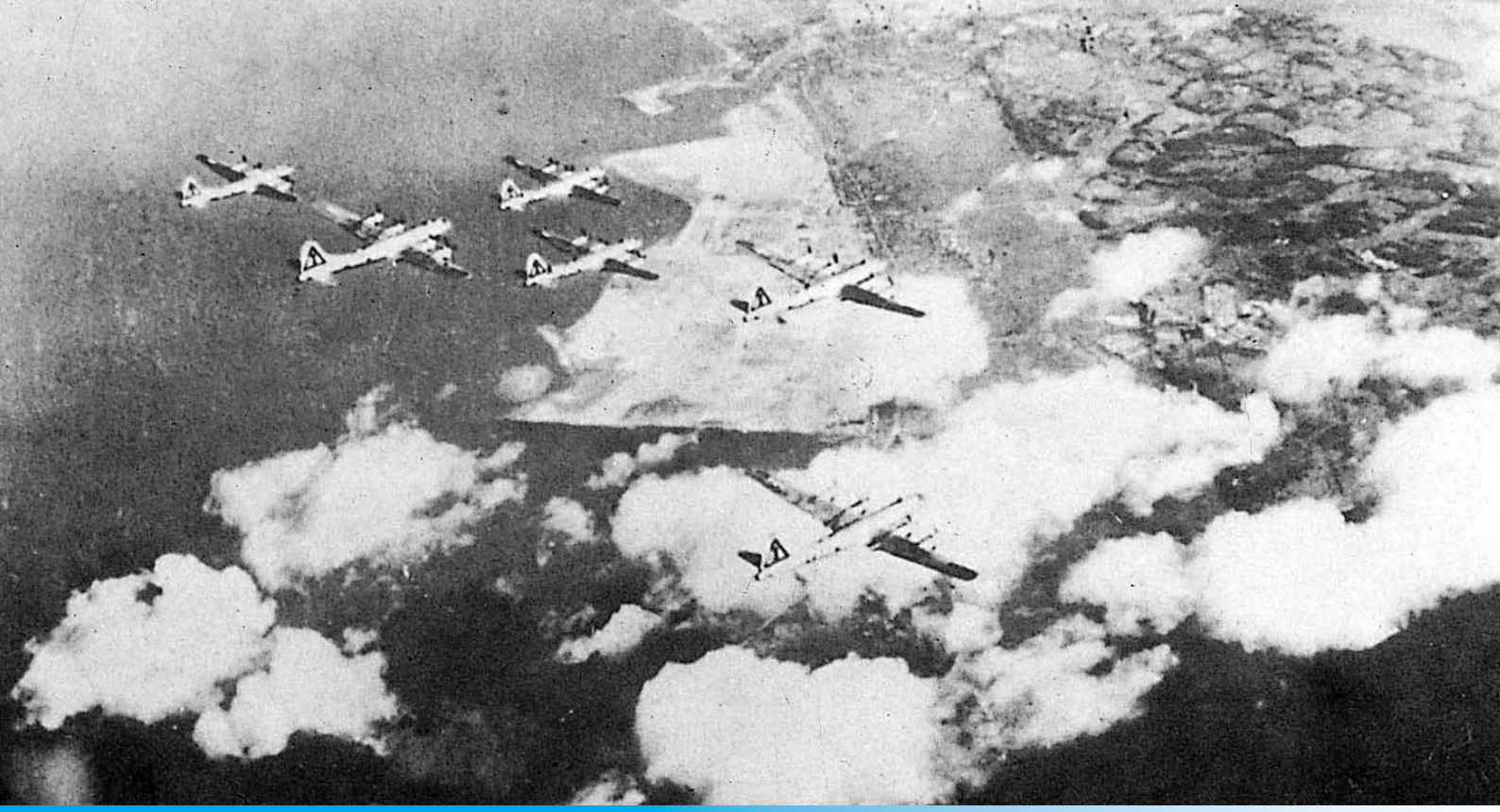


千葉空襲写真誌

あなたに伝えたい…「戦争の悲惨さ」、「平和の尊さ」を。

千葉市

目次

1　戦前・戦中の千葉市・・・・・・・・・・・・・・・・・1

昭和初期の街並み
市内の陸軍関係の学校・施設
戦時下の市民生活

2　千葉空襲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

昭和20年(1945年)6月10日
昭和20年(1945年)7月7日

3　焼け野原からの再出発・・・・・・・・・・・・・・・14

戦災復興事業

4　平和都市をめざして・・・・・・・・・・・・・・・・18

平和都市宣言
平和都市宣言記念像
主な平和啓発事業

本誌の趣旨

千葉市は、昭和20年（1945年）6月10日と7月7日、太平洋戦争による空襲を受け、中心市街地の約7割が焼け野原となり、尊い人命と多くの都市施設を失いました。

その後、市民の英知の結集とたゆみない努力により力強く復興し、今日の大都市に発展してまいりました。

このパンフレットは、戦前・戦中の千葉市の様子や空襲の状況などを紹介し、戦争を知らない世代などに戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えようとするものです。

一人ひとりの幸せや都市の繁栄は、争いごとや戦争のないことが基本であります。私たちは、お互いの理解や国際交流などを通じ、いつまでも平和な時代が続くよう、努力を続けてまいりましょう。

千　葉　市

表紙写真　　上／千葉市上空を飛ぶＢ29の編隊(撮影日不詳)〈写真提供：千葉市空襲を記録する会〉
　　下／空襲から8か月後の中心市街地(昭和21年(1946年2月28日)、米軍撮影)

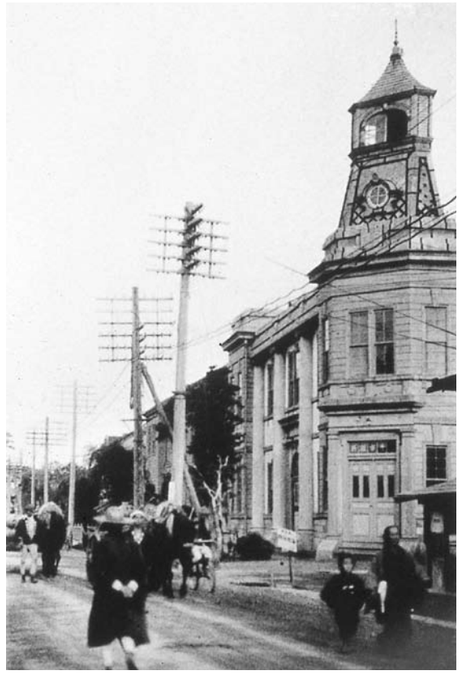
表紙写真(下)は、国土地理院長の承認を得て、米軍撮影の空中写真を複製し、測量法第29条に基づく複製承認(承認番号　平18関複、第81号)の一部を転載したものである。

1　戦前・戦中の千葉市

千葉市の近代都市としての礎は、明治6年（1873年）6月15日、県庁が置かれたことです。

その後、明治22年（1889年）4月1日、市制・町村制の施行とともに、千葉町、寒川村、登戸村、黒砂村、千葉寺村の5町村が合併して、「千葉町」が誕生しました。

また、千葉医学専門学校（千葉大学医学部の前身）などの学校や鉄道第一聯隊（れんたい）等の陸軍関係の施設が設けられると人口が増加し、大正10年（1921年）1月1日、市制施行により人口3万3,887人の千葉市が誕生しました。



千葉市役所　大正2年(1913年)11月に完成した千葉町役場。市制施行後も市庁舎として使用されました。

大正５年(1916年)９月撮影の航空写真　写真中央左手に見えるのが県庁舎で、右手下には千葉県師範学校が見えます。

昭和初期の街並み

県内の交通の要衝である千葉市は、県都としての機能のほか、医療の街、軍都として発展し、県内外から集まる多くの人々でにぎわいをみせました。

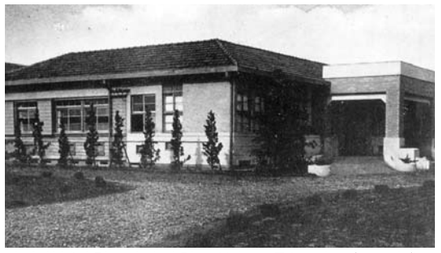
昭和10年（1935年）の国勢調査によると、千葉市の人口は５万7,446人でしたが、昭和12年（1937年）の４町村（検見川町、蘇我町、都賀村、都村）との合併により、人口は８万833人に増加しました。

県庁・市役所付近（昭和7年〔1932年〕　下志津陸軍飛行学校機撮影）

市庁舎　昭和15年（1940年）12月、谷津遊園から移築しました。明治32年（1899年）6月日本勧業銀行本店として新築。現在の千葉トヨペット本社。

病　院　等

千葉大学附属病院　昭和12年（1937年）４月に完成。当時東洋一の規模を誇りました。



市立葛城病院　市立病院の前身。昭和14年（1939年）、工費８万5,000円をもって矢作町に建てられ、翌年には２万5,000円を費やして増築しました。

日本赤十字社千葉支部　昭和２年（1927年）に県公会堂の跡地に新築移転しました。この中には県医師会や県歯科医師会なども入っていました。

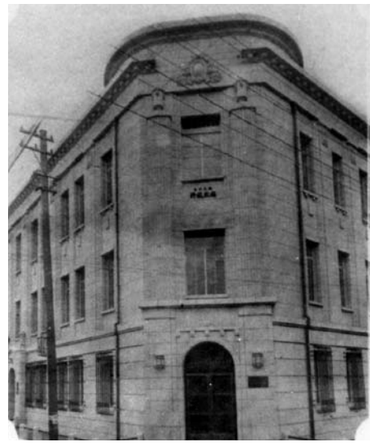
鉄　道

省線千葉駅　改築された昭和２年（1927年）頃。現在この場所には市民会館が建っています。

千葉機関庫　昭和２年（1927年）頃。現在のJR千葉駅のあたりに機関庫がありました。

銀行・百貨店の前身

第九十八銀行本店　大正14年（1925年）5月の新築。この建物は、昭和18年（1943年）3月31日合併により「千葉銀行」が誕生し、本店として昭和48年（1973年）3月まで使われ、その後、同行中央支店として使われました。



千葉合同銀行本店　大正14年（1925年）6月の総武銀行本店として完成。昭和3年（1928年）7月31日千葉合同銀行本店となり、その後千葉銀行千葉支店を経て、千葉相互銀行本店、同行本町支店として使われました。

川崎第百銀行（昭和2年〔1927年〕9月に川崎銀行と第百銀行が合併）　矢部又吉設計、大正14年（1925年）1月8日着工、昭和2年（1927年）3月26日竣工。市指定文化財「千葉市さや堂ホール」として保存。

奈良屋千葉店　大正12年（1923年）の関東大震災を契機に売上高が伸び、店舗が手狭となったため、昭和5年（1930年）11月1日、百貨店形態を目指した新店舗を開店。建物は木骨モルタル仕上げ。

扇屋モスリン店　「扇屋ジャスコ」として親しまれたデパートの前身は、昭和8年（1933年）3月に開店。

市内の陸軍関係の学校・施設

明治41年（1908年）6月の交通兵旅団と鉄道聯隊第二大隊の椿森移転以来、本市には、陸軍歩兵学校、気球聯隊など多くの陸軍施設が中央区（椿森、弁天）や稲毛区（作草部、天台、穴川、小仲台、園生）の台地に集積し、その総面積は約462ヘクタール（約140万坪）に及びました。現在跡地は、学校や公園、公共施設などに利用されています。

千葉市内の主な陸軍関係施設一覧表

NO.	名称等	設置年月日	所　在	主な業務・沿革等	跡地の主な現施設
①	千葉聯隊区司令部	昭和6年(1931年)1月18日	中央区椿森五丁目	・千葉県下の徴兵、動員、召集、在郷軍人の指導等を行った。 ・明治21年(1888年)5月21日「佐倉大隊区司令部」設置、明治29年(1896年)3月10日「佐倉聯隊区司令部」と改称、昭和5年(1930年)3月25日同司令部焼失。昭和5年(1930年)12月21日「千葉聯隊区司令部」と改称、昭和6年(1931年)1月椿森の交通兵旅団司令部跡に移転。	財務省関東財務局千葉財務事務所 日本たばこ産業（株）千葉営業所
②	千葉陸軍病院	明治41年(1908年)4月1日	中央区椿森四丁目	・傷病兵の治療にあたった。明治41年(1908年)4月「千葉衛戍病院」創設、昭和11年(1936)10月1日「千葉陸軍病院」と改称。	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
③	鉄道第一聯隊	明治41年(1908年)6月2日	中央区椿森二丁目四丁目	・戦地では鉄道の建設・修理及び兵員・物資を輸送した。平時は千葉市とその周辺で訓練をした。 ・明治29年(1896年)11月18日「鉄道大隊」として東京・牛込の陸軍士官学校内に創設、明治30年(1897年)6月28日東京・中野に転営、明治40年(1907年)10月22日「鉄道聯隊」に昇格、同年11月23日津田沼に転営。明治41年(1908年)6月2日第二大隊のみ椿森に転営、同年11月2日鉄道聯隊本部及び第一大隊の全てが椿森に転営、大正7年(1918年)5月29日「鉄道第一聯隊」になった。（「鉄道第二聯隊」は津田沼）	椿森中学校、椿森公園
④	同　材料廠	明治41年(1908年)	稲毛区轟町三丁目	・鉄道工兵の教育、鉄道器材の修理を行っていた。 ・明治41年(1908年)鉄道聯隊が椿森転営の際「聯隊材料廠」を建設。大正7年(1918年)5月29日鉄道第一聯隊、同第二聯隊（津田沼）への改組に伴い「鉄道材料廠」として聯隊より独立、大正12年(1923年)3月末日廃止。その施設の一部を利用し、「鉄道第一聯隊材料廠」を設置。	千葉経済大学（材料廠跡） 県立千葉東高校（同都賀倉庫跡）
⑤	同　作業場	明治41年(1908年)	中央区弁天	・演習用の作業場	千葉公園（綿打池から競輪場付近）
⑥	千葉陸軍兵器補給廠	大正12年(1923年)4月1日	稲毛区轟町三丁目四丁目五丁目	・兵器の補給、鉄道器材の保管を行っていた。 ・大正12年(1923年)3月末日「鉄道材料廠」が廃止し、同年4月1日その施設の大部分を利用し「千葉陸軍兵器支廠」が発足、昭和14年(1939年)「千葉陸軍兵器補給廠」と改組、昭和20年(1945年)4月18日「東京陸軍兵器補給廠」に併合、「東京陸軍兵器補給廠千葉分廠」となる。	轟町小、轟町中、市教育センター 市立第二養護学校 千葉経済大学短期大学部 千葉経済大学付属高校
⑦	陸軍歩兵学校	大正元年(1912年)12月24日	稲毛区作草部町	・歩兵の戦闘法を研究し、これを全軍に普及させる目的で設立。	作草部公園、県中央児童相談所 天台保育所、千葉少年鑑別所
⑧	気球聯隊	昭和2年(1927年)10月	稲毛区作草部町	・大正2年(1913年)所沢に「気球隊」新設、昭和2年(1927年)10月作草部に転営、昭和11年(1936年)5月「気球聯隊」と改称。	県営作草部住宅、県計量検定所 川光倉庫（旧格納庫）
⑨	千葉陸軍戦車学校	昭和11年(1936年)12月1日	稲毛区穴川四丁目	・戦車隊に必要な基礎的学術・通信・整備の教育及び戦車に関する調査・研究を行った。 ・昭和11年(1936年)8月「陸軍戦車学校」習志野に発足、同年12月1日穴川に移転し開校式を挙行、昭和15年(1940年)「千葉陸軍戦車学校」と改称。	稲毛区役所、県立京葉工業高校 独立行政法人放射線医学総合研究所
⑩	千葉陸軍防空学校（千葉陸軍高射学校）	昭和13年(1938年)8月1日	稲毛区小仲台	・高射砲術の教育を行った。昭和13年(1938年)4月四街道の陸軍野戦砲兵学校内に「陸軍防空学校創立準備室」発足、同年8月に小仲台に移転、昭和17年(1942年)8月1日「千葉陸軍防空学校」と改称、昭和19年(1944年)4月に「千葉陸軍高射学校」と改称。	小中台小、稲毛図書館 仲よし公園、県立千葉女子高校 小中台中、市立千葉高校
⑪	下志津陸軍飛行学校	大正12年(1923年)5月17日	若葉区若松町	・偵察機教育を行った。 ・大正10年(1921年)4月「陸軍航空学校下志津分校」を印旛郡千代田村に創立、大正12年(1923年)1月若松町に移転、大正13年(1924年)「下志津陸軍飛行学校」として創立。昭和19年(1944年)6月廃校し、「下志津教導飛行師団」となる。	自衛隊下志津駐屯地（高射学校） 日本基督教短期大学

注1　設置年月日とは、千葉市に創設または移転した時期です。
注2　上記のほかに、誉田陸軍飛行場、陸軍航空本部畑送信所などの施設がありました。

本表は防衛省防衛研究所戦史部の協力により作成したものです。

①千葉聯隊区司令部跡

千葉財務事務所（中央区椿森）

②千葉陸軍病院跡

（独）国立病院機構 千葉医療センター（中央区椿森）

③鉄道第一聯隊正門

（中央区椿森）

④鉄道第一聯隊材料廠跡

千葉経済学園内（稲毛区轟町）　「轟町」の地名は、軍靴の音が賑やかであったところから名付けられました。〔県指定有形文化財〕

⑤鉄道第一聯隊作業場

橋脚が破壊された場合の復元訓練風景で、現在の千葉公園内少年野球場付近です。

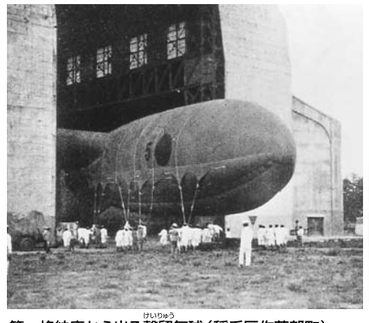
⑥陸軍兵器補給廠跡

昭和40年(1965年)頃撮影（提供 千葉経済学園）

⑦陸軍歩兵学校

正門（稲毛区作草部町）

⑧気球聯隊



第一格納庫から出る繋留気球（稲毛区作草部町）

現在、川光倉庫が使用している旧第二格納庫（稲毛区作草部町）

⑨千葉陸軍戦車学校

左側は中戦車A型ホイペット（イギリス製）、右側はルノーFT型（フランス製）（稲毛区穴川）

⑩千葉陸軍防空学校（千葉陸軍高射学校）

正門（稲毛区小仲台）

⑪下志津陸軍飛行学校

現在、自衛隊下志津駐屯地（高射学校）となっています。（若葉区若松町）

戦時下の市民生活

昭和6年（1931年）9月満州事変が勃発し、さらに、昭和12年（1937年）の盧溝橋事件をきっかけに全面的な日中戦争となりました。そして、昭和16年（1941年）12月8日、ハワイの真珠湾攻撃により太平洋戦争に突入し、昭和20年（1945年）8月の終戦まで15年にわたる戦争が続きました。戦時下では防空演習などが行われました。

防　空

千葉防空演習本部前の本部員　昭和7年(1932年)7月、市役所に本部が設置されました。前列左から神谷市長、岡田知事、竹内千葉衛戍司令官。

県庁北側の日本赤十字千葉支社で行われた防空演習　昭和7年(1932年)7月、市内各地で大規模な演習が行われました。（防空写真帳　昭和7年発行より）

市民のくらし

なぎなたの練習　武道が正課となり、高学年の女子は「なぎなた」の練習をするようになりました。(千城国民学校)

さつまいもの切り干しの供出作業　子どもたちは軍馬の餌にする、さつまいもの切り干しづくりを行っていました。（昭和18年〔1943年〕頃 都町にて）

千葉駅改札に女性　戦争も激しくなってきた昭和19年(1944年)、女性の改札係が登場しました。

雑誌の表紙も時代を反映

婦人倶楽部附録
昭和13年(1938年)
9月1日号

子供の科学
昭和14年(1939年)
3月1日号

子供の科学
昭和14年(1939年)
6月1日号

写真週報
昭和19年(1944年)
6月7日号

写真週報
昭和19年(1944年)
9月6日号

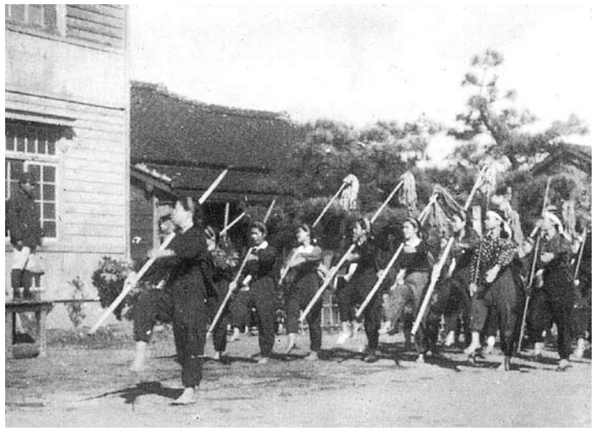
写真週報
昭和19年(1944年)
9月27日号

旧千葉医大附属病院　昭和12年(1937年)4月の完成当時は、東洋一の規模を誇りましたが、戦局が激しくなると外壁に迷彩（カムフラージュ）をほどこしました。

現在の千葉大学医学部

「千葉市ゆかりの家・いなげ」敷地内に現存する防空壕(外観)
通常は、崖地に素掘りの「横穴式防空壕」であったが、コンクリート製のものは、珍しい。

(内部)



火たたき棒を肩に校庭を行進する自警団（昭和18年〔1943年〕11月）
〈写真提供：千葉経済学園〉

発行された衣料切符

〈中央区都町／露﨑芳郎氏所蔵〉

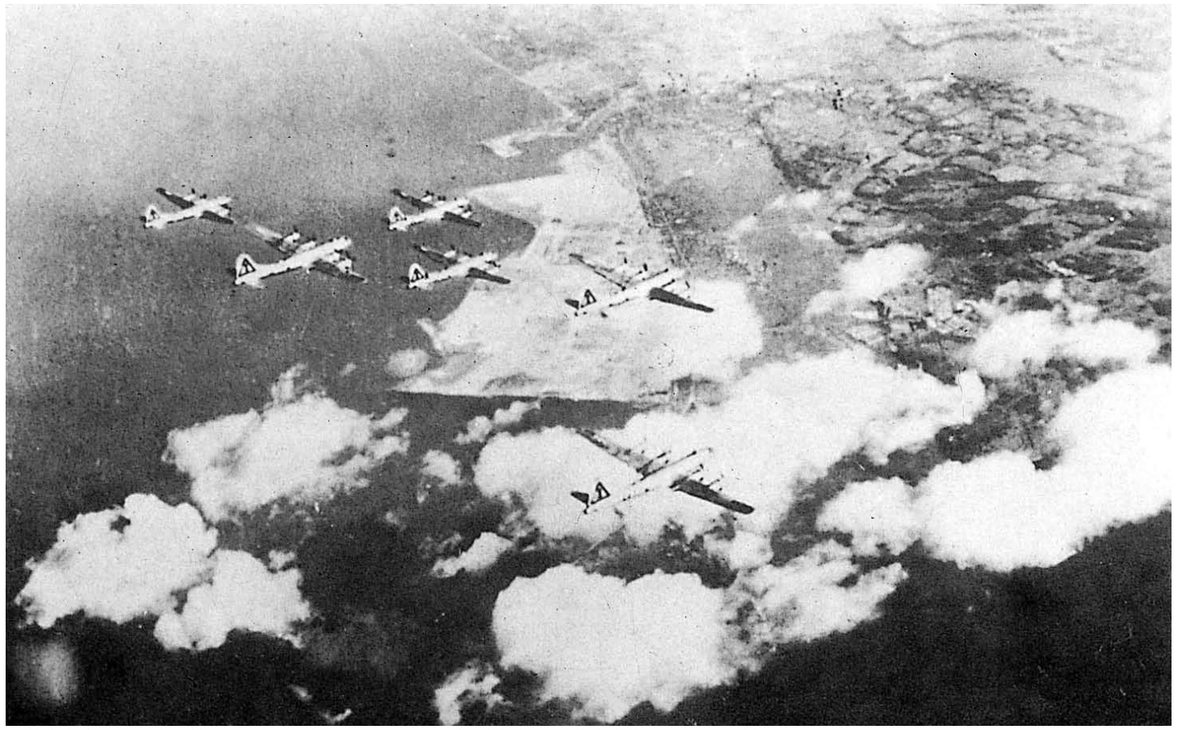
2 千葉空襲

昭和19年（1944年）7月から8月にかけて、米軍がマリアナ諸島（サイパン、グアム、テニアン）を占領して以来、マリアナ諸島を飛び立つ米軍のB29による本土空襲は、主要都市（東京（3/10）・大阪（3/13～14）・神戸（3/17）・名古屋（3/19、3/24～25、6/9）・川崎（4/15）・横浜（5/29））から始まり、次第に地方都市へと及び、本土の無差別爆撃となりました。

千葉市への大空襲は数度ありましたが、米軍が千葉市を目標とした空襲は、昭和20年（1945年）6月10日と7月7日（七夕空襲）です。2度の空襲により、中心市街地（約330ヘクタール）の約7割（231ヘクタール）が焼け野原となり、死傷者1,595人、被災戸数8,904戸、被災者4万1,212人に及びました。

参考：昭和20年12月末日の人口は、9万5,903人

東部防空情報解説図（左上／表面、右／裏面）
昭和19年(1944年)11月、「スーパーフォートレス（超空の要塞）」と愛称がつけられたB29による日本空襲が開始されました。B29はただ一機で、サイパン島・東京間往復4,560kmを飛行しました。昭和20年(1945年)2月10日の新聞にこの図が発表になると、またたく間に各戸へ浸透していきました。大きさは壁に貼るものから名刺大までさまざま。国民はラジオでB29の情報を聞きながら、この図を見て進路を判断し、自分の行動を決めました。
＜中央区亥鼻　清水啓次氏寄贈＞



千葉市上空を飛ぶ米軍機B29の編隊（撮影日不詳）　〈写真提供：千葉市空襲を記録する会〉

現在の千葉市上空　中央に蘇我副都心が見える。平成18年(2006年)2月5日撮影

昭和20年(1945年)6月10日

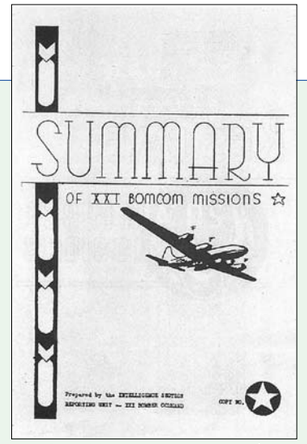
空襲の状況

●午前7時45分から同46分にかけての一瞬の攻撃でした。グアム北飛行場を飛び立った27機のB29による日立航空機千葉工場（現在のJFEスチール東日本製鉄所　千葉地区付近）を目標とした500ポンド通常爆弾（138.2トン）による攻撃でした。

米　軍　資　料

作戦任務第198号

1	日付	1945年6月10日
2	目標	日立航空機会社千葉工場　90．14ー2145
3	参加部隊	第314航空団（グアム北飛行場）
4	出撃機数	27機
5	第1目標爆撃機数の割合	96.5%（第1目標26機）
6	爆弾・信管のタイプ	AN－M64　500ポンド通常爆弾ー 1／100秒延期弾頭、無延期弾底
7	投下爆弾トン数	第1目標138.2トン
8	第1目標上空時間	6月10日7時45分～7時46分
9	攻撃高度	15,600～17,200フィート
10	目標上空の天候	10／10
11	損失機数合計	0機
12	作戦任務の概要	弾着写真によると、3飛行隊（Squadrons）が目標を攻撃。写真から工場に損害がないことが明らか。敵機16機視認、攻撃回数なし。敵機に与えた損害の申告なし。対空砲火は重砲、薄弱で不正確。B29の5,000フィート下にP51と思われる数機が見られた。2機のB29が硫黄島に着陸。平均爆弾搭載量11,754ポンド。



この資料は、マリアナ基地（サイパン、グアム、テニアン）のアメリカ陸軍航空隊B29部隊の「作戦任務要約」（Mission Summary）です。

1フィートは0.3048メートル、約0.3メートル。1マイルは約1.61キロメートル。1平方マイルは2.59平方キロメートル。1ポンドは約0.45キログラム。1ガロンは約3.8リットル。

出典　小山仁示訳『米軍資料日本空襲の全容』ーマリアナ基地B29部隊ー　東方出版　1995年

空　襲　資　料

罹災証明書（昭和20年〔1945年〕6月10日の空襲）〈寄贈／長門堯子氏（船橋市）〉

爆弾の破片で裂けたアルバム

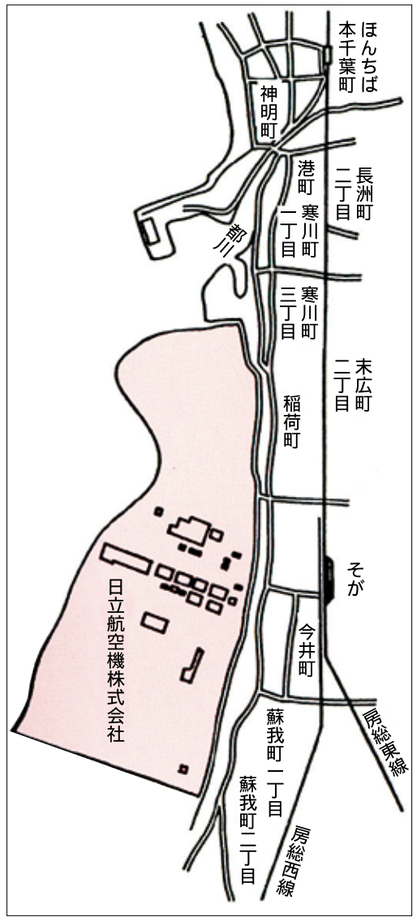
（6月10日の空襲で被弾・倒壊した千葉師範学校女子部の寄宿舎跡から掘り出された）

〈資料提供／岩梨泰子氏（中央区新千葉）〉

被害の状況

●この空襲による被害地域は、同工場の一部と蘇我町一丁目付近、そして目標から外れた新宿・富士見・新田町・新町付近で、死傷者391人、被災戸数415戸、被災面積26ヘクタールに及びました。

●被害を受けた主な施設は、省線千葉機関庫（現在のJR千葉駅付近）、千葉師範学校女子部、県立千葉高等女学校など。



日立航空機　千葉工場　昭和21年（1946年）2月28日　米軍撮影

この写真は、国土地理院長の承認を得て、米軍撮影の空中写真を複製し、測量法第29条に基づく複製承認(承認番号　平18関複、第81号)の一部を転載したものである。

昭和20年(1945年)7月7日

空襲の状況

●午前1時39分から3時5分までの攻撃で、「七夕空襲」とも呼ばれています。テニアン西飛行場を飛び立った129機のB29による千葉市街地を目標にした夜間の焼夷弾（889.5トン）の投下による無差別攻撃で、中心市街地は火の海と化しました。

米　軍　資　料

作戦任務第251号

1	日付	1945年7月6・7日
2	目標	千葉市街地
3	参加部隊	第58航空団（テニアン西飛行場）
4	出撃機数	129機
5	第1目標爆撃機数の割合	95.48%（第1目標124機、臨機目標1機）
6	爆弾・信管のタイプ	AN-M47A2　100ポンド焼夷弾　瞬発弾頭。 E46　500ポンド焼夷集束弾　目標上空5,000フィートで解束するよう弾底セット。 T4E4　500ポンド破片集束弾　投下1,000フィートで解束するよう弾頭セット。
7	投下爆弾トン数	第1目標889.5トン、臨機目標6.3トン
8	第1目標上空時間	7月7日1時39分～3時5分
9	攻撃高度	9,900～11,500フィート
10	目標上空の天候	10／10
11	損失機数合計	0機
12	作戦任務の概要	搭乗員への質問から、目標地域で点々と火災が起こりはじめ（scattered　fires were started）、煙が25,000フィートまで上昇してきたことが判明。偵察写真によると、千葉の市街地の43.4%（0.86平方マイル）を破壊、または損害を与えた。5機が目視により、残りがレーダーにより爆撃。4機が無効果出撃。遭遇した対空砲火は重砲、中口径、小口径、皆無ないし貧弱、不正確。敵機18機視認、攻撃回数1。14機のB29が硫黄島に着陸。平均爆弾搭載量14,974ポンド。平均燃料残量842ガロン。

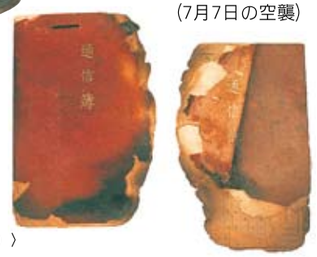
出典　小山仁示訳『米軍資料日本空襲の全容』ーマリアナ基地B29部隊ー　東方出版　1995年

空　襲　資　料

焼夷弾

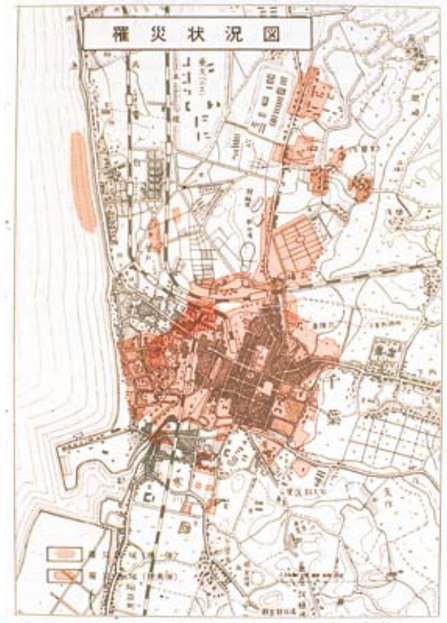
焼け跡からの懐中時計
（7月7日の空襲）

焼けた銅貨



焼け焦げた通信簿
（7月7日の空襲）

〈すべての資料提供／金親兼弘氏（中央区院内町）〉



「千葉戦災復興誌」昭和55年(1980年)
千葉県発行

罹災区域(爆弾)
罹災区域(焼夷弾)

被害の状況

●この空襲により、中心市街地の大部分が焼き尽くされ、死傷者1,204人、被災戸数8,489戸、被災面積205ヘクタールに及びました。

●被害を受けた主な施設は、千葉地方裁判所、千葉郵便局、千葉鉄道管理部、省線千葉駅、同本千葉駅、京成千葉駅などのほか、鉄道第一聯隊（れんたい）（椿森）、気球聯隊・歩兵学校（作草部町）、千葉陸軍高射学校（小仲台）などの軍事施設。

空襲から約8カ月後の中心市街地（白い部分が罹災区域）　昭和21年（1946年）2月28日　米軍撮影

この写真は、国土地理院長の承認を得て、米軍撮影の空中写真を複製し、測量法第29条に基づく複製承認(承認番号　平18関複、第81号)の一部を転載したものである。

3 焼け野原からの再出発

昭和20年（1945年）８月15日、ポツダム宣言の受諾により、太平洋戦争が終結しました。

空襲による家屋の焼失、物価高騰、食糧不足など、市民生活は困窮を極めました。

しかし、そのような苦しい中、人々は必死でバラック小屋を建て生活の再建をし、街の復興に向けて立ち上がりました。

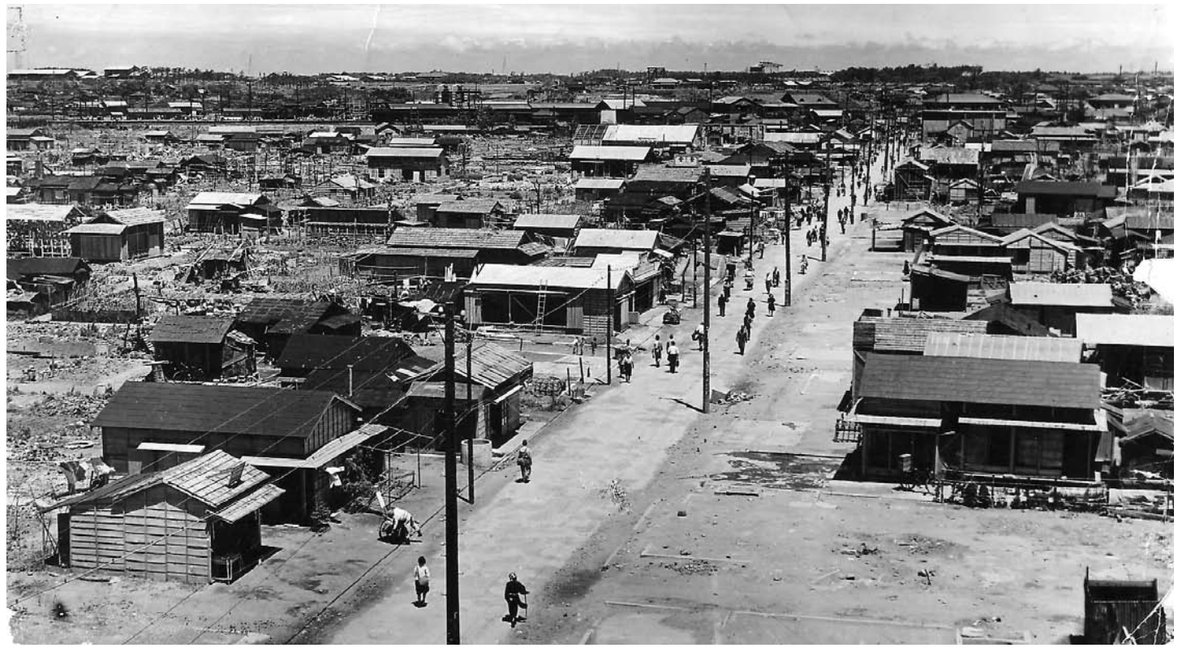
昭和天皇がご視察　昭和天皇が千葉市を訪問され、亥鼻山から戦災復興状況を視察されました。奏上者は渡辺良雄市長代理（助役）。（昭和21年〔1946年〕６月７日）

復興に向けて

本町通り　亥鼻山から見た市中心街。中央が本町通り及び大和橋。（昭和21年〔1946年〕８月）

吾妻町付近　千葉銀行本店屋上から見た亥鼻山・県庁方面。（昭和21年〔1946年〕８月）

本千葉方面　県教育会館屋上から見た本千葉方面。煙突は旧参松。（昭和21年〔1946年〕８月）



栄町通り　千葉銀行本店屋上から見た栄町通り。通りの正面は国鉄千葉駅。（昭和21年〔1946年〕8月）

戦後の市民生活

千葉銀座通りのヤミ市　昭和21年（1946年）秋頃のヤミ市の様子。正面が千葉銀行本店です。

国鉄千葉駅前の買い出し部隊　主な生活物資は配給制でしたが、ヤミ市はますます増加していきました。

勤労奉仕　昭和22年（1947年）頃、浜野町付近。近隣の人々が協力しあい、道路工事を行いました。

本町小の校舎上棟式　昭和23年（1948年）

····戦災復興事業····

終戦後、政府の「戦災復興計画基本方針」に基づき、千葉市は都市計画委員会を中心に、戦災復興院、県などと協議を重ねて復興計画を立案、昭和21年（1946年）６月27日に117万坪（386.8ヘクタール）の事業認可を受けました。この計画では、市の人口規模を15～20万人と想定したほか、千葉市を都市の衛星都市、学園都市、臨海水辺都市、県の政治・経済・文化の中心都市と位置付けました。

この計画により、国鉄千葉駅、京成千葉駅の移転を中心として道路・公園などの整備が行われ、事業は昭和55年に完了しました。

事業計画図

（「千葉戦災復興誌」より）

施行前

施行後

①国鉄千葉駅

国鉄千葉駅　昭和２年（1927年）に改築された旧千葉駅。（現在の市民会館付近）

移転工事中の国鉄千葉駅　昭和38年（1963年）４月28日に開業しました。　（昭和38年〔1963年〕１月撮影）

JR千葉駅　（平成13年〔2001年〕3月撮影）

②千葉駅前大通り

昭和20年代頃

昭和40年代

（平成19年〔2007年〕６月撮影）

③中央公園付近

昭和30年代の旧京成千葉駅跡

昭和40年代

（平成19年〔2007年〕６月撮影）

④葭（よし）川公園付近

昭和20年代

昭和30年代

（平成19年〔2007年〕６月撮影）

4　平和都市をめざして

千葉市は、昭和20年（1945年）、2度にわたる大空襲により中心市街地の約7割が焼失しました。その後我が国の経済発展とともに成長し、政令指定都市に発展しました。こうした繁栄は、平和がもたらしたものであります。

本市は、平成元年、世界の恒久平和を願い「平和都市」を宣言し、さらに平成7年「平和都市宣言記念像」を設置するなど、様々な平和啓発への取り組みを行っています。

平和都市宣言

私たちの郷土千葉市は、「ゆとりと活力ある都市づくり」を基本目標に、心のふれあう豊かで美しい地域社会の創造と健康で快適なまちづくりに懸命な努力を続けているところである。

郷土千葉市の発展と市民の幸せは、日本の安全と世界の恒久平和なくしては望み得ないものである。

よって、私たちは、核兵器などによる戦争への脅威をなくし、市民共通の願いである世界の恒久平和を求め、ここに「平和都市」を宣言する。

平成元年２月２８日

千　葉　市

平成元年（1989年）2月28日、千葉市は世界の恒久平和を願い、市議会で「平和都市」を宣言しました。

平和都市宣言記念像

『FUTURE SUPPORTERS』
未来を支える人々

平成7年（1995年）7月7日、千葉空襲・終戦50周年を記念し「平和都市宣言」のシンボルとなる記念像を空襲の被災地である京成千葉中央駅東口前に設置しました。
同記念像は、デザインアイデアの一般公募により選ばれた関正司氏の作品です。高さ10メートルのステンレス製の像は、人々が互いに尊重し、信頼しあいながら支え合う姿を表現しています。

主な平和啓発事業

1　千葉空襲パネル展

戦争の悲惨さを後世に伝え、平和の大切さについて市民の皆様に考えていただくよう、毎年７月から８月にかけて、そごう千葉店や各区役所、生涯学習センターなどで、千葉空襲の状況や戦時下の市民生活等の写真パネル展を実施しています。

そごう千葉店会場
（平成18年〔2006年〕８月撮影）

生涯学習センター会場
（平成18年〔2006年〕7月撮影）

2　戦跡めぐりバスツアー

次代を担う子どもたちを対象に、市内の戦跡をめぐるバスツアーを毎年実施しています。

平成18年(2006年)の戦跡めぐりバスツアーの模様
千葉経済学園（鉄道第一聯隊材料廠跡・稲毛区轟町）

3　平和講演会

平和の大切さをわかりやすく理解してもらうことを目的に、平和に関する講演会を開催しています。

平成18年(2006年)の平和講演会の模様
（平成18年〔2006年〕10月21日生涯学習センター・講師：海老名香葉子さん　千葉市）

●この他にも、千葉市では毎年、様々な平和啓発事業を行っております。詳しくはホームページや市政だより等で随時ご案内いたします。

4 写真パネル・ビデオ・DVDの貸出し

千葉市では平和啓発事業の一環として、千葉空襲写真パネルや、平和に関するビデオテープを随時貸し出しています。詳しい内容については、下記連絡先へお問い合わせください。

ＤＶＤ「千葉空襲　戦災体験談　平和の道しるべ」

「千葉空襲写真パネル」（Ｂ２判、11枚）

貸出し場所		電話番号
市役所市民総務課		０４３－２４５－５１５６
各区役所総務課	中　央　区	０４３－２２１－２１０３
	花見川区	０４３－２７５－６２０２
	稲　毛　区	０４３－２８４－６１０２
	若　葉　区	０４３－２３３－８１２０
	緑　　区	０４３－２９２－８１０３
	美　浜　区	０４３－２７０－３１２０

「平和に関するビデオテープ・ＤＶＤ」など

所　蔵　品
ビデオテープ：４７本 ＤＶＤ：６本 「広島・長崎被爆写真パネル」：２６枚 「原爆と人間展パネル」：４０枚
貸出し場所／電話番号
市役所市民総務課 ０４３－２４５－５１５６

写真及び資料提供者（50音順）

印旛沼開発文庫
千葉経済学園
千葉県
千葉市空襲を記録する会
東方出版
ノーベル書房

板倉榮一氏
岩梨泰子氏
香川成治氏
金親兼弘氏
清水啓次氏
露崎芳郎氏
長門堯子氏
野口栄治郎氏

このほか「千葉市制施行70周年記念誌」（平成3年1月発行）及び「写真集 千葉市のあゆみ」（平成13年3月30日発行）に写真提供をいただいた方々。

主要参考文献（発行年、書名、発行）

昭和11年「回顧四十年」鉄道隊四十年記念祭委員
昭和49年「千葉市史・近世近代編」千葉市
昭和51年「四街道町史・兵事編　上巻」四街道町
昭和53年「高射戦史」下志津（高射学校）修親会
昭和53年「ふるさとの思い出　写真集　明治大正昭和　千葉」国書刊行会
昭和54年「軍服の青春」ノーベル書房
昭和55年「千葉戦災復興誌」千葉県
昭和55年「千葉市空襲の記録」千葉市空襲を記録する会
昭和55年「日本工兵写真集」原書房
平成元年「私たちの戦争体験記」千葉市
平成元年「米軍資料に見る　千葉・銚子空襲」千葉市空襲を記録する会
平成２年「事典　昭和戦前期の日本　制度と実態」吉川弘文館
平成３年「千葉市制施行70周年記念誌」千葉市
平成５年「千葉市図誌」千葉市
平成６年「日本陸軍兵科連隊」新人物往来社
平成12年「千葉市教育史〔写真編〕」千葉市教育委員会
平成13年「写真集 千葉市のあゆみ」千葉市

千葉空襲写真誌　あなたに伝えたい…「戦争の悲惨さ」、「平和の尊さ」を。

発　行　日／平成20年7月1日
編集・発行／千葉市市民局市民部市民総務課
千葉市中央区千葉港1番1号
TEL.043-245-5156　FAX.043-245-5155
E-Mail　somu.CIC@city.chiba.lg.jp
ホームページ　http://www.city.chiba.jp/heiwa/h_index.html
制　作／有限会社 萌 翔 社

無断転載・複写を禁じます

平和都市宣言記念像

『FUTURE SUPPORTERS』未来を支える人々

—京成千葉中央駅前—

PRINTED WITH SOY INK™ 環境にやさしい大豆油インキを使用しています

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています

KEISEI GROUP

京成線千葉中央駅直結　「京成ホテルミラマーレ」はアクセス抜群！
優しさあふれるおもてなしでお客様をお迎えします。

京成ホテルミラマーレは、東京ディズニーリゾート®・グッドネイバーホテルです。

京成ホテルミラマーレ

〈ご予約・お問い合せ〉TEL:043-222-2111
www.miramare.co.jp

東京ディズニーリゾート ⇔ 約55分〈専用バス〉 / 60～80分〈空港高速バス〉 ⇔ 羽田空港

KEISEI HOTEL MIRAMARE

幕張メッセ ⇔ 約30分〈京成線・京成バス〉 / 約65分〈空港高速バス〉 ⇔ 成田空港